

授業科目	事例研究（異文化理解） Case Study (Intercultural Communication)			担当教員	内田 智子		
展開方法	演習	単位数	2単位	開講年次・時期	1・2年／前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
日本人が経験してきた異文化との接触を学び、観光の分野で問題となる事柄を抽出、考察できるようになることを目標とする。前半では、歴史上における日本人と異文化の接触、および、当時の日本人の対応について理解を深める。それを踏まえて、後半では、現代における異文化接触の場面をとりあげ、ケース事例として分析していく中で、観光の分野に活かす方法を考えていく。							
観点	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
関心・意欲 ・態度	積極的に討議へ参加できる。				討議への参加	20%	
思考・判断	異文化について、多角的な視点から考察できる。				レジュメ	20%	
技能・表現	分かりやすく論理的なプレゼンテーションをすることができ きる。				プレゼンテーション	30%	
知識・理解	様々な異文化を理解し、文献検索ができるようになる。				レポート	30%	
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
上記の評価方法で討議への参加を 20%、レジュメを 20%、プレゼンテーション 30%、レポートを 30%で評価する。							
授業の概要							
履修者各自が報告するかたちで、異文化に関する事例を研究する。「日本人と外国人の接触」に関し、毎時間テーマを指定し、そのテーマに沿った事象を報告、討議する中で、異文化に対する理解を深めていく。							
教科書・参考書							
教科書：とくに指定しない。 参考書：必要に応じて、授業内で紹介する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
日常生活における異文化接触への「気づき」が重要である。留学生活や海外旅行、日常生活での外国人との接触の中で感じたことを積極的に報告してほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	導入	異文化接触の経験話し合い、異文化理解のテーマを把握する。担当箇所の割り当て。	異文化接触の経験、感じたことをまとめておく。
2	日本人の異文化接触 1	日本の歴史上における異文化接触を概観する。	日本の歴史年表から異文化接触の例をまとめる。
3	日本人の異文化接触 2	古代～平安時代における異文化接触について学ぶ。	古代～平安時代の異文化接触の中で興味を持ったものを調べる。
4	日本人の異文化接触 3	江戸時代の長崎と出島について学び、日本人と西洋文化の接触について考える。	出島の果たした役割を文献で調べる。
5	日本人の異文化接触 4	対馬と朝鮮通信使について学び、異文化接触としての朝鮮通信使の歴史的意義について考える。	朝鮮通信使について文献で調べる。
6	日本人の異文化接触 5	開国後の日本の状況について学び、海外からの影響を考察する。	開国後の日本の状況を調べる。
7	日本語と外国語 1	「言語」の観点から異文化コミュニケーションの問題点を抽出する。	配布プリントの熟読。
8	日本語と外国語 2	「言語」の観点から異文化接触を考察し、観光において問題となる点を抽出する。	外国人にとって分かりにくい表記や表示をまとめる。
9	食生活 1	外国の食生活の特徴を学ぶ。	宗教的・文化的理由で口にしない食材を調べておく。
10	食生活 2	「食生活」の観点から異文化接触を考察し、観光において問題となる点を抽出する。	食の異文化対応をしている観光地を調べておく。
11	観光と外国人 1	外国人観光客にとっての日本観光の問題点を報告、討議を行う。	新聞・ニュース記事から関連記事を収集。
12	観光と外国人 2	外国人観光客にとっての日本観光の問題点を報告、討議を行う。	新聞・ニュース記事から関連記事を収集。
13	観光と外国人 3	日本人にとっての外国人観光客の問題点を報告、討議を行う。	新聞・ニュース記事から関連記事を収集。
14	観光と外国人 4	日本人にとっての外国人観光客の問題点を報告、討議を行う。	新聞・ニュース記事から関連記事を収集。
15	まとめ	これまでの議論を振り返る。	レポート作成。